# 平成 27 年度 箱根町の財務書類

平成 29 年 3 月 箱 根 町

現在、地方公共団体の会計は、1年間の現金の収支に着目した「現金主義・単式簿記」が採用されています。この制度は、その年度の現金の動きがわかりやすい反面、資産や負債などに係るストック情報や、行政サービスを提供するために発生したコスト情報が不足しているため、近年、「発生主義・複式簿記」による企業会計的な手法を導入する動きが広がっていました。

このようななか、総務省が統一的な財務書類作成手法の検討を行い、2つのモデル(基準モデル・総務省方式改訂モデル)が示され、全ての地方公共団体に作成・公表が要請されました。

当町においては、資産評価の段階的整備が可能な総務省方式改訂モデルを用いた財務 書類を作成することとし、平成21年度に普通会計財務書類、平成22年度から普通会計 財務書類に加えて普通会計財務書類を用いた分析や普通会計以外の特別会計や第3セ クターなどを含めた連結財務書類を作成しているものです。

# 目 次

1	財務書類について	 1
2	財務書類の作成基準	 2
3	普通会計財務書類	
(1)	貸借対照表について	 4
(2)	行政コスト計算書について	 7
(3)	純資産変動計算書について	 10
(4)	資金収支計算書について	 11
4	連結財務書類	
(1)	連結財務書類の概要及び対象会計について	 13
(2)	連結貸借対照表について	 15
(3)	連結行政コスト計算書について	 16
(4)	連結純資産変動計算書について	 17
(5)	連結資金収支計算書について	 18
5	財務書類(本表)及び分析資料	
(	) 普通会計財務書類(本表)	 19
(2	2) 普通会計財務書類の分析結果	 23
(;	3) 連結財務書類(本表)	 32

### 1 財務書類について

財務書類は、以下の4種類を作成し財政状況を明らかにするものですが、それぞれの表には、次のような相互関係があります。

### ● 財務書類(財務4表)の概要

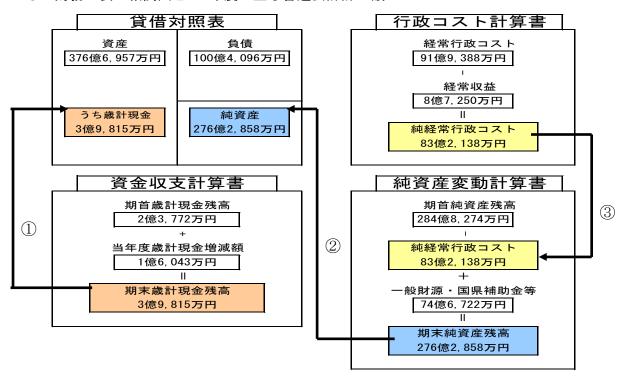
「貸借対照表」 …地方自治体が保有している資産と、その資産をどのような財源でまかなってきたか総括的に表すもの

「行政コスト計算書」…1 年間の行政活動のうち資産形成に結びつかない行政サービス に係る経費とその行政サービスの直接の対価として得られた財 源の対比を表すもの

「純資産変動計算書」…地方自治体の保有する資産が 1 年間でどのように変動したかを表すもの

「資金収支計算書」 …資金の出入りの情報を3つの区分にわけて表すもの

### ● 財務 4 表の相関図と 27 年度の主な普通会計計上額



- ①資金収支計算書は、歳計現金の動きを表す計算書ですが、期末歳計現金残高は貸借対 照表の歳計現金残高と必ず一致します。すなわち、資金収支計算書は貸借対照表に計 上されている歳計現金の増減明細になります。
- ②貸借対照表の純資産は、国・県補助金や当町の財源で既に負担した部分を表していますが、この純資産の変動を表したものが純資産変動計算書になります。
- ③行政コスト計算書は、純資産変動計算書における純経常行政コストの詳細な内訳明細です。1年間にかかった経常行政コスト総額から受益者負担である経常収益を控除することで、一般財源、補助金等受入等で負担すべき純経常行政コストが算出されます。

### 2 財務書類の作成基準

### (1) 財務書類の作成モデル

当町では、総務省から平成 19 年 10 月に示された「新地方公会計制度実務研究会報告 書」の作成モデルのうち総務省方式改訂モデルに基づき財務書類を作成します。

### (2) 対象会計範囲

普通会計及び町と連携協力して行政サービスを実施している他の会計や関係団体を含 めた会計(連結対象法人等)を対象としております。

普通会計とは、地方財政状況調査(決算統計)上で統一的に用いられる会計区分で当 町の場合は一般会計に育英奨学金特別会計を加えたものです。

また、連結対象法人等とは、普通会計以外の特別会計、公営企業会計、一部事務組合、 広域連合、地方三公社及び第3セクターを含めた会計のことで当町では9会計・団体が 対象となります。

### (箱根町の対象会計)

### ●普通会計

### 一般会計

### 育英奨学金特別会計

### ●連結対象会計

- ①国民健康保険特別会計
- ②後期高齢者医療特別会計 ⑧ (一財) 箱根町観光協会
- ③介護保険特別会計
- ⑨ (公財) 箱根町文化・スポーツ財団

⑦神奈川県後期高齢者医療広域連合

- 4)温泉特別会計
- ⑤下水道事業特別会計
- ⑥水道事業会計

### (3) 作成年度及び基準日

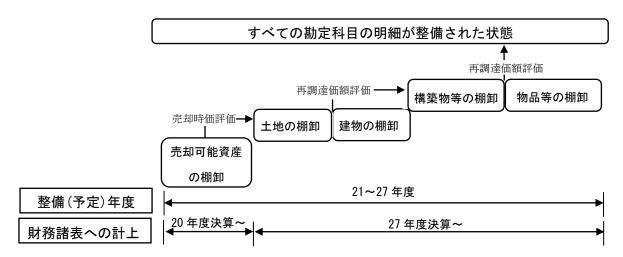
作成年度は、平成27年度とし、基準日を平成28年3月31日としていますが、出納整 理期間における出納については、基準日までに終了したものとして処理しています。

### (4) 有形固定資産

取得原価主義に基づいて計上しており、具体的には、昭和44年以降の決算統計の普通 建設事業費の累計額から減価償却累計額を除いた額を計上しています。

総務省方式改訂モデルでは、当面の間、取得原価をもとに算定した価格をもって財産 台帳に計上しておき、段階的整備に公正価値(再調達価額)評価を行うこととされてお り、当町では、平成 21 年度から公有財産整備事業により土地・建物などの評価を行って いますが、そのうち売却可能資産は、時価評価にて計上することとされているため今回 の財務書類に反映しております。

### (資産の段階的整備の状況)



### (5) 減価償却

土地を除く有形固定資産は、総務省から示された有形固定資産耐用年数表により、残存価格ゼロの定額法で減価償却を行っています。

### (6) 売却可能資産

財務課管理の普通財産のうち 100 ㎡以上の一団の土地を時価評価して計上しています。

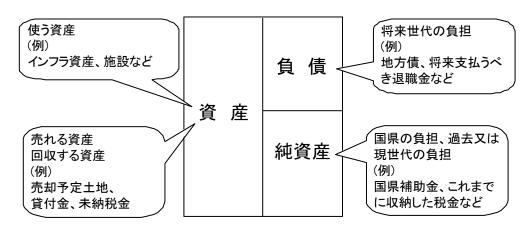
### (7) 回収不能見込額

歳入歳出決算書の収入未済額のうち、時効等の理由により回収が困難と見込まれる町 税や使用料等の額を、過去5年間の不能欠損の実績率を用いて算定し、計上しています。

### 3 普通会計財務書類

- (1) 貸借対照表について
  - 貸借対照表とは

貸借対照表とは、自治体が住民サービスを提供するために保有している財産(資産)と、その資産をどのような財源(負債・純資産)でまかなってきたか総括的に対照表示した一覧表です。また、資産合計額と負債・純資産合計額が一致し、左右がバランスしている表であることからバランスシートとも呼ばれます。



### ・ 平成27年度貸借対照表の概要

平成 27 年度末の資産総額は 376 億 6,957 万円、負債総額は 100 億 4,096 万円、純資産 総額は 276 億 2,858 万円となっており、資産全体に対する負債の割合は 27%となってい ます。

また、町民1人あたりの資産額及び負債額を算出すると、資産額は、315 万円、負債額は84万円となっています。(人口は、平成27年度末の住民基本台帳人口11,969人により算出)

			単位:万円
資産の部	金額	負債の部	金額
1 公共資産		1 固定負債	
(1) 有形固定資産	345億1,696万円	(1) 地方債	56億4,500万円
(2) 売却可能資産	10億3,456万円	(2) 長期未払金	0 円
		(3) 退職手当引当金	33億4,991万円
2 投資等			
(1) 投資及び出資金	2億8, 222万円	2 流動負債	
(2) 貸付金	9, 264万円	(1) 翌年度償還予定地方債	8億9,646万円
(3) 基金等	4億9,323万円	(2) 短期借入金	0 円
(4) 長期延滞債権	4億1,505万円	(3) 未払金	0 円
(5) 回収不能見込額	△4, 309万円	(4) 翌年度支払予定退職手当	0 円
		(5) 賞与引当金	1億4,962万円
3 流動資産		負債合計	100億4,099万円
(1) 現金預金	7億8,946万円	純資産の部	
(2) 未収金	8,854万円	純資産合計	276億2,858万円
資産合計	376億6, 957万円	負債・純資産合計	376億6, 957万円

### 有形固定資産の行政目的別内訳

行政サービスを提供するための資産である有形固定資産をその使途である行政の目的 別に分類すると、当町では、小中学校や社会教育施設の関連経費である「教育」が最も 高く、その次が道路・住宅などの「生活インフラ・国土保全」となっています。

単位:万円

			<u>-   17 · 77   1</u>
有形固定資産 の内訳	当町における主なもの	計上額	構成比
生活インフラ・ 国土保全	道路、公園、町営住宅など	102億9, 794万円	29. 8%
教育	小中学校、総合体育館など	122億8, 774万円	35. 6%
福祉	保育園など	4億6,886万円	1.4%
環境衛生	環境センター、 一般廃棄物最終処分場など	32億5, 545万円	9. 4%
産業振興	観光施設など	14億3,924万円	4. 2%
消防	消防署、消防車両など	26億0, 453万円	7. 5%
総務	庁舎・出張所など	41億6, 320万円	12. 0%
	合計	345億1,696万円	100.0%

<sup>※27</sup>年度は、取得価額 (決算統計の普通建設事業費の積上げ) にて計上 しています。

### 貸借対照表に係る用語解説

### ① 有形固定資産

長期間にわたって住民サービスを提供するために使用されるもので、具体的には、 土地・建物などが該当し、自治体が提供する住民サービスは多岐にわたっており、ど の分野の資産をどれだけ持っているかをあらわすため生活インフラ・国土保全、教育 など行政目的別に区分されています。

### ② 売却可能資産

公共資産のうち、遊休資産や未利用資産など、現在、行政目的のために使用されていない資産をいい、当町では財務課管理の普通財産のうち 100 ㎡以上の一団の土地を対象としています。

### ③ 投資及び出資金

公営企業や公社、第3セクター等への出資金・出えん金で当町では、水道事業会計や土地開発公社への出資金などが該当します。なお、将来発生する可能性のある投資 損失がある場合、投資損失引当金に計上します。

### ④ 貸付金

当町の場合、育英奨学金などが該当しますが、返済期限が到来しているにもかかわらず回収されない貸付金は、未収金あるいは長期延滞債権として別に計上されるため、貸付金に計上されている金額は、返済期限未到来の債権の額となります。

### ⑤ 基金等

基金には、特定の目的のために積み立てる「特定目的基金(箱根町資源保全基金など)」と、特定の目的のために定額の資金を運用する「定額運用基金」があります。 また、基金等には、基金のほかに「退職手当組合積立金」も含まれ、これらは将来の支出に対する財源の備えとなります。

⑥ 長期延滞債権

町税や貸付金・使用料等のうち納付期限から1年以上経過しているにもかかわらず、いまだに収入されない債権のこと。

⑦ 回収不能見込額

町税や貸付金・使用料等の収入未済額のうち時効等により将来回収不能と見込まれる金額のこと。

⑧ 現金預金

歳計現金・財政調整基金のこと。

9 未収金

町税や貸付金・使用料等の収入未済額のうち、滞納期間が1年未満のもので長期延滞債権と同様に回収不能見込額も計上されます。

① 固定負債

貸借対照表の基準日から1年以上あとに支払いや返済が行われる予定のもの。

⑪ 地方債

地方債の年度末残高のうち、翌年度の元金償還金予定額を控除した額のこと。

① 長期未払金

既に物件の引渡しやサービスの提供を受けたものについて、まだ支払っていない額、 あるいは債務保証や損失補償の履行が決定した額など。

③ 退職手当引当金

全職員(特別職含む)が年度末に普通退職したと仮定した場合の退職手当見込額。

14 流動負債

1年以内に支払いや返済をしなければならない債務など。

15 翌年度償還予定地方債

地方債のうち翌年度償還予定額。

⑯ 短期借入金(翌年度繰上充用金)

収支不足が発生した場合の翌年度予算からの前借額。

① 未払金

固定負債の長期未払金が翌々年度以降の支払い予定額であるのに対し、翌年度の支払い予定額は未払金として計上されます。

18 翌年度支払予定退職手当

職員に支払う退職手当のうち翌年度支払予定額。

19 賞与引当金

翌年度に支給される賞与のうち当年度に発生した金額のこと。

### (2) 行政コスト計算書について

### 行政コスト計算書とは

行政コスト計算書とは、4月1日から翌年の3月31日までの1年間の行政活動のうち、福祉活動やごみの収集といった資産形成に結びつかない行政サービスに係る経費(経常行政コスト)と、その行政サービスの直接の対価として得られた財源(経常収益)を対比させた財務書類です。

これにより、その差額として、地方公共団体の一会計期間中の行政活動のうち資産形成に結びつかない経常的な活動について、税収等でまかなうべき行政コスト (純経常行政コスト) が明らかにされます。

### - 平成27年度行政コスト計算書の概要

経常行政コストは、91 億 9,388 万円、受益者負担である使用料・手数料等と分担金・ 負担金、寄付金を合わせた経常収益は、8 億 7,250 万円となっています。

そして、経常行政コストから経常収益を控除すると、町税収入や国・県補助金などの公的負担の必要額である「純経常行政コスト」を示し、83億2,138万円となっています。また、町民1人あたりの経常行政コストは77万円、経常収益は7万円となっています。

科目	金額
経常行政コスト(A)	91億9, 388万円
<ol> <li>人にかかるコスト</li> <li>(1) 人件費</li> <li>(2) 退職手当引当金繰入等</li> <li>(3) 賞与引当金繰入額</li> <li>2 物にかかるコスト</li> <li>(1) 物件費</li> <li>(2) 維持補修費</li> <li>(3) 減価償却費</li> <li>3 移転支出的なコスト</li> <li>(1) 社会保障給付</li> <li>(2) 補助金等</li> <li>(3) 他会計への支出額</li> <li>(4) 他団体への公共資産整備補助金等</li> <li>4 その他のコスト</li> </ol>	30億0,940万円 23億7,759万円 4億8,219万円 1億4,962万円 39億6,080万円 21億6,104万円 2億7,869万円 15億2,107万円 21億0,516万円 5億4,229万円 5億2,652万円 10億3,582万円 161,852万円
(1) 支払利息 (2) 回収不能見込計上額 (3) その他行政コスト	7, 675万円 4, 177万円 0万円
経常収益(B) 純経常行政コスト(C)=(A)-(B)	8億7, 250万円 83億2, 138万円

### ・ 行政コストの目的別及び性質別内訳

経常行政コストの内訳を性質別(縦軸)でみると、各種施設や公共サービスを民間に委託した場合の委託費や減価償却費などの「物にかかるコスト」が43.1%、職員の人件費などの「人にかかるコスト」が32.7%、次いで社会保障給付費や補助金などの「移転支出的なコスト」が22.9%となっています。

単位:万円

		<u> </u>
項目	計上額	構成比
人にかかるコスト	30億0,940万円	32. 7%
物にかかるコスト	39億6,080万円	43. 1%
移転支出的なコスト	21億0,516万円	22. 9%
その他のコスト	1億1,852万円	1. 3%
経常行政コスト	91億9,388万円	100.0%
経常収益	8億7, 250万円	

また、経常行政コストの内訳を目的別(横軸)でみると福祉 18.5%、総務 17.7%、 環境衛生 16.7%、次いで教育 14.4%となっています。

> 単位:万円 主な項目 計上額 構成比 11.1% 生活インフラ・国土保全 10億1,924万円 14.4% 教育 13億2.086万円 福祉 16億9,876万円 18. 5% 環境衛生 15億3.213万円 16. 7% 産 業 振 興 (観光含む) 5億3.754万円 5.8% 消防 12億0.673万円 13. 1% 17. 7% 総務 16億2,958万円 議会 1億3,052万円 1.4% その他 1億1.852万円 1.3% 計 91億9,388万円 100.0%

### ・ 行政コスト計算書に係る用語解説

### ① 人件費

決算統計の人件費に事業費支弁人件費を加えた額から、当該年度の退職手当組合負担金及び前年度の貸借対照表に計上した賞与引当金を控除した額のこと。

### ② 退職手当引当金繰入額

当該年度に退職手当として新たに繰入れた分に相当する額のこと。

③ 賞与引当金繰入額

将来発生する期末勤勉手当見込額を負債計上したもの。27 年 6 月支給分のうち 26 年度分の支給対象期間である 4 ヶ月分を計上したもの。

④ 物件費

消耗品費、光熱水費、印刷製本費、委託料、使用料及び賃借料、備品購入費などの 経費のこと。

⑤ 維持補修費

町が管理する施設等の維持修繕に要する経費のこと。

⑥ 減価償却費

有形固定資産の使用に係る負担を当該年度の経費に反映させるため、有形固定資産 の取得価額を使用可能年数(耐用年数)で割った額のこと。

⑦ 社会保障給付

医療費助成などの扶助費のこと。

⑧ 補助金等

公共資産整備補助金を除く、補助金及び負担金など。

⑨ 他会計への支出額

他会計への繰出金のこと

① 他団体への公共資産整備補助金等

他団体への公共資産整備に対する補助金及び負担金など。

⑪ 支払利息

地方債利子償還額や一時借入金利子分など。

(12) 回収不能見込計上額

貸付金及び長期延滞債権のうち回収不能が見込まれる額。

① 経常収益

使用料・手数料、分担金・負担金、寄付金のこと。

14 純経常行政コスト

行政コスト計算書により算定される、経常行政コストから経常収益を控除したもの。

### (3) 純資産変動計算書について

### • 純資産変動計算書とは

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産の部に計上されている各数値が1年間でどのように変動したかを表している計算書です。

純資産変動計算書においては、地方税、地方交付税などの一般財源、国県支出金などの特定財源が純資産の増加要因として計上され、行政コスト計算書で算出された純経常費用(純経常行政コスト)が純資産の減少要因として計上されることなどを通じて1年間の純資産総額の変動が明らかにされます。

また、純資産は、今までの世代が資産形成してきた部分であり、それが1年間で増えた(資産を蓄積した)のか減った(資産を消費した)のかが明らかになります。

### 平成27年度純資産変動計算書の概要

平成27年度末純資産残高は、期首と比べて8億5,416万円減少しています。一般財源、補助金等受入などによる増よりも、純経常行政コストによる減が大きいため、期末純資産残高は276億2,858万円となっています。

		単位	<u>立:万円</u>
科	目	金	額
期首純資産残高		284億8,	274万円
純経常行政コスト		   83億2,	138万円
一般財源 地方税 地方交付税 その他行政コスト	充当財源	6,	893万円 550万円 759万円
補助金等受入		   8億1,	312万円
臨時損益		Δ1,	807万円
資産評価換えによる変	变動額		156万円
期末純資産残高		276億2,	858万円

### • 純資産変動計算書に係る用語解説

### ① 純経常行政コスト

行政コスト計算書により算定される、経常行政コストから経常収益を控除したもの。

### ② 臨時損益

公共資産の除売却や第3セクター等に対する債権の放棄など経常的ではない特別な 事由に基づく損益。

③ 資産評価替えによる変動額 資産の評価に伴う価値の増減額のこと。

### (4) 資金収支計算書について

### ・ 資金収支計算書とは

資金収支計算書は、1年間の資金(現金)の出入りの情報を、性質別に3つに分けて表示した財務書類です。3つの区分とは、「経常的収支の部」、「公共資産整備収支の部」及び「投資・財務的収支の部」です。

当町でどのような活動に資金が必要とされ、それをどのようにまかなったかがわかるとともに、歳計現金をどのような性質の活動で獲得し、または使用しているのかを読み取ることができます。

### 平成27年度資金収支計算書の概要

「経常的収支」では、人件費や物件費、補助金などの日常の行政サービスにかかる収支で15億6,006万円の収支余剰となっています。

一方で、公共事業等の社会資本整備の収支を表す「公共資産整備収支」は、9,235 万円の収支不足、また、町債の償還や貸付金の収支を表す「投資・財務的収支」は、13 億728 万円の収支不足で、両部門の収支不足は13 億9,963 万円となります。

これらの収支不足を「経常的収支」の資金余剰で補てんした結果、全体の資金収支は 1億6,043万円増加し、年度末では3億9,815万円となっています。

		T I . /J . /
	科目	金額
1	経常的収支	15億6,006万円
2	公共資産整備収支	△9, 235万円
3	投資・財務的収支	13億0,728万円
	当年度歳計現金増減額	1億6,043万円
	期首歳計現金残高	2億3,772万円
	期末歳計現金残高	3億9,815万円

(基礎的財政収支)	
収入総額 ①	94億6, 914万円
支出総額 ②	93億0,871万円
地方債発行額 ③	7億2,750万円
地方債元利償還額 ④	9億9, 156万円
財政調整基金等増減 ⑤	1億4,910万円
基礎的財政収支 ⑥ = ① - ② - ③ + ④ + ⑤	2億7, 539万円

### • 資金収支計算書に係る用語解説

① 経常的収支

人件費や物件費などの支出と町税や手数料などの収入が計上されており、日常の行政活動による資金収支の状況が表示されています。

② 公共資産整備収支

公共資産の整備などによる支出とその財源である補助金・借金(町債)などによる収入が計上されており、いわゆる公共事業に伴う資金の使途とその財源の状況が表示されています。

③ 投資·財務的収支

出資、貸付、基金の積み立て、借金の返済による支出とその財源である補助金、借金、貸付金元金の回収などの収入が計上されており、投資活動や借金の返済(財務活動)による資金の出入りの状況が表示されています。

④ 基礎的財政収支(プライマリーバランス)

地方債の発行・償還や財政調整基金の積立・取崩しを除いた、基礎的な収支情報のことです。

### 4 連結財務書類

- (1) 連結財務書類の概要及び対象会計について
  - 連結財務書類とは

連結財務書類とは、普通会計のほか、地方自治体を構成するその他の特別会計や、地方自治体と連携協力して行政サービスを実施している関係団体や法人を1つの行政サービス実施主体とみなして作成する財務書類のことです。

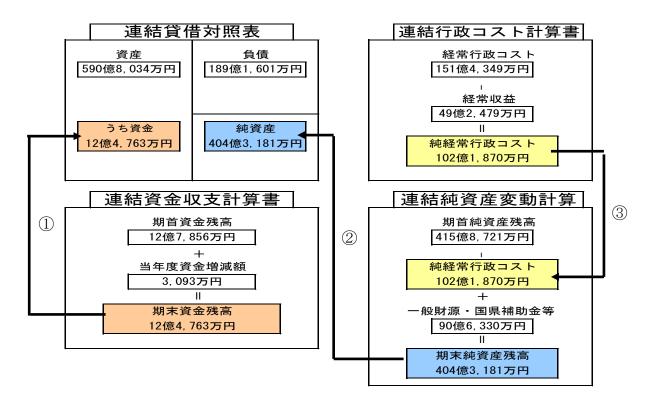
### • 連結対象会計等

当町における平成27年度の連結対象会計及び連結割合等は、次のとおりです。

区分		会計部分	貸借対照表 上の科目	27年度 連結割合
普通会計		一般会計	各目的別に計上	100%
	日地云前	育英奨学金特別会計	教育	100/0
	普通会計	国民健康保険特別会計		100%
地方公共	以外の	後期高齢者医療特別会計	福祉	100%
団 体	特別会計	介護保険特別会計		100%
	公営企業会計	温泉特別会計	生活インフラ	100%
		下水道事業特別会計	国土保全	100%
	ДШ	水道事業会計	環境衛生	100%
一部事務組合		<b>%</b> 1	_	_
広域連合		神奈川県後期高齢者医療広域連合	福祉	0. 3%
第三セク		(一財)箱根町観光協会	産業振興	100%
第二で:	<i>/                                    </i>	(公財)箱根町文化・スポーツ財団	教育	100%

※1 当町では、一部事務組合として「箱根町外二カ市組合」及び「南足柄市外四ケ市 町組合」がありますが、負担金額が僅少であること。また、実際の経費負担を財産区 特別会計にて行っていることから、連結対象会計に含めておりません。

また、「神奈川県市町村職員退職手当組合」については、総務省改訂モデルでは、退職 手当組合の保有する資産及び負債は、普通会計財務書類において退職手当組合積立金 及び退職手当引当金という勘定科目で計上しているため、普通会計財務書類にて連結 しているものとみなしています。「神奈川県町村情報システム共同事業組合」につい ても同様に、普通会計財務書類へ負担金を計上することで連結しているものとみなし ています。 ● 財務 4 表の相関図と 27 年度の主な連結財務書類計上額



- ①連結資金収支計算書は、資金の動きを表す計算書ですが、期末資金残高は連結貸借対 照表の資金残高と必ず一致します。すなわち、連結資金収支計算書は連結貸借対照表 に計上されている資金の増減明細になります。
- ②連結貸借対照表の純資産は、国・県補助金や当町の財源で既に負担した部分を表していますが、この純資産の変動を表したものが連結純資産変動計算書になります。
- ③連結行政コスト計算書は、連結純資産変動計算書における純経常行政コストの詳細な内訳明細です。1年間にかかった経常行政コスト総額から受益者負担である経常収益を控除することで、一般財源、補助金等受入等で負担すべき純経常行政コストが算出されます。

### (2) 連結貸借対照表について

· 平成 27 年度連結貸借対照表の概要

平成 27 年度末の資産総額は 590 億 8,034 万円、負債総額は 189 億 1,601 万円、純資産 総額は 404 億 3,181 万円となっており、資産全体に対する負債の割合は 32.0%となって います。

また、町民 1 人あたりの資産額及び負債額を算出すると、資産額は 494 万円、負債額は 158 万円となっています。(人口は、平成 27 年度末の住民基本台帳人口 11,969 人により算出)

資産の部	金額	負債の部	金額
1 公共資産		1 固定負債	
(1) 有形固定資産	550億1,939万円	(1) 地方公共団体	126億0,314万円
(2)無形固定資産	0万円	(2) 関係団体	0万円
(3) 売却可能資産	10億3,456万円	(3) 長期未払金	0万円
		(4) 引当金	33億7,074万円
2 投資等		(5) その他	9億3,858万円
(1) 投資及び出資金	1,472万円		
(2) 貸付金	9, 287万円	2 流動負債	
(3) 基金等	10億8, 194万円	(1) 翌年度償還予定地方債	16億8,080万円
(4) 長期延滞債権	5億1,098万円	(2) 短期借入金	0万円
(5) その他	470万円	(3) 未払金	1億2,543万円
(6) 回収不能見込額	△7,456万円	(4) 翌年度支払予定退職手当	0万円
		(5) 賞与引当金	1億6, 268万円
3 流動資産		(6) その他	3,465万円
(1) 資金	12億4,763万円	負債合計	189億1,602万円
(2) 未収金	1億8,904万円		
(3) 販売用不動産	0万円		
(4) その他	370万円	純資産の部	
(5) 回収不能見込額	△4,463万円	純資産合計	404億3, 181万円
資産合計	590億8,034万円	負債・純資産合計	593億4, 783万円

### (3) 連結行政コスト計算書について

・ 平成 27 年度連結行政コスト計算書の概要

経常行政コストは、151 億 4,349 万円、受益者負担である使用料・手数料等と分担金・ 負担金、寄付金を合わせた経常収益は、49 億 2,479 万円となっています。

そして、経常行政コストから経常収益を控除すると、町税収入や国・県補助金などの公的負担の必要額である「純経常行政コスト」を示し、102億1,870万円となっています。また、町民1人あたりの経常行政コストは127万円、経常収益は41万円となっています。

-	单位:万円
科目	金額
経常行政コスト(A)	151億4, 349万円
<ol> <li>人にかかるコスト</li> <li>(1) 人件費</li> <li>(2) 退職手当引当金繰入等</li> <li>(3) 賞与引当金繰入額</li> <li>2 物にかかるコスト</li> <li>(1) 物件費</li> <li>(2) 維持補修費</li> <li>(3) 減価償却費</li> <li>3 移転支出的なコスト</li> <li>(1) 社会保障給付</li> <li>(2) 補助金等</li> <li>(3) 他会計への支出額</li> <li>(4) 他団体への公共資産整備補助金等</li> <li>4 その他のコスト</li> <li>(1) 支払利息</li> <li>(2) 回収不能見込計上額</li> </ol>	33億0, 237万円 26億5, 675万円 4億8, 294万円 1億6, 268万円 1億6, 268万円 27億0, 693万円 3億5, 905万円 25億7, 131万円 57億7, 151万円 44億0, 590万円 12億2, 313万円 95万円 1億4, 153万円 4億3, 232万円 2億6, 635万円 6, 035万円
(3) その他行政コスト 経常収益(B)	1億0, 562万円 <b>49億2, 479万円</b>
純帯収量(b) 純経常行政コスト(C)=(A)−(B)	102億1, 870万円

### (4) 連結純資産変動計算書について

· 平成 27 年度連結純資産変動計算書の概要

平成 27 年度末純資産残高は、期首と比べて 11 億 5,539 万円減少しています。一般財源、補助金等受入などによる増よりも、純経常行政コストによる減が大きいため、期末純資産残高は 404 億 3,181 万円となっています。

科	目	金	額
期首純資産残高		415億8,	721万円
純経常行政コスト		△102億1,	870万円
一般財源 地方税 地方交付税 その他行政コスト	·充当財源	6,	893万円 550万円 759万円
補助金等受入		24億1,	345万円
臨時損益		Δ1,	876万円
   出資の受入・新規設: 	立		0万円
   資産評価換えによる	変動額		15万円
その他		Δ	356万円
期末純資産残高		404億3,	181万円

### (5) 連結資金収支計算書について

· 平成 27 年度連結資金収支計算書の概要

「経常的収支」では、人件費や物件費、補助金などの日常の行政サービスにかかる収支で 18 億 88 万円の収支余剰となっています。

一方で、公共事業等の社会資本整備の収支を表す「公共資産整備収支」は、1億9,287 万円の収支不足、また、町債の償還や貸付金の収支を表す「投資・財務的収支」は、16 億3,894万円の収支不足で、両部門の収支不足は18億3,181万円となります。

これらの収支不足を「経常的収支」の資金余剰で補てんした結果、全体の資金収支は 3,093万円減少し、年度末では12億4,763万円となっています。

				. , , ,
	科	目	金	額
1	経常的収支		18億0,	088万円
2	公共資産整備収	支	△1億9,	287万円
3	投資•財務的収	支	△16億3,	894万円
	翌年度繰上	· 充用金増減額		0万円
	当年度資	金増減額	Δ3,	093万円
	期首資	金残高	12億7,	856万円
	期末資	金残高	12億4,	763万円

### 5 財務書類(本表)及び分析書類

### (1) 普通会計財務書類(本表)

※4 普通会計の将来負担に関する情報

貸借対照表 (平成28年3月31日現在)

,111			<b>6</b> **		
借	方		貸	方	
資産の部]			[負債の部]		
公共資産			1 固定負債	5 045 000	
(1) 有形固定資産	40.007.000		(1) 地方債	5, 645, 002	
①生活インフラ・国土保全	10, 297, 938		(2) 長期未払金	0	
②教育	12, 287, 738		①物件の購入等	0	
③福祉 	468, 859		②債務保証又は損失補償	0	
④環境衛生	3, 255, 450		③その他		
⑤産業振興 ⑥消防	1, 439, 244 2, 604, 535		長期未払金計(3)退職手当引当金	3. 349. 911	
(7)総務	4, 163, 197		(4) 損失補償等引当金	3, 349, 911	
	4, 163, 197 34, 516, 96	1	(4) 損失補損等引当金 固定負債合計		0.004.01
有形固定資産計		_	国定負債合計 	_	8, 994, 913
(2) 売却可能資産	1, 034, 56		o 75 4 4 /5		
公共資産合計		35, 551, 524	2 流動負債	202 454	
4D 300 600			(1) 翌年度償還予定地方債	896, 454	
(1) 特洛五式山巻春			(2) 短期借入金(翌年度繰上充用金)	0	
(1) 投資及び出資金	000 040		(3) 未払金	0	
①投資及び出資金	282, 216		(4) 翌年度支払予定退職手当	149, 618	
②投資損失引当金	-	•	(5) 賞与引当金	149, 618	1 040 07
投資及び出資金計		_	流動負債合計	_	1, 046, 072
(2) 貸付金	92, 64	<u>u</u>	# /# A =1		10 040 00
(3) 基金等			負 債 合 計	_	10, 040, 985
①退職手当目的基金	0				
②その他特定目的基金 ③土地開発基金	493, 227		[(d : 22 = 2 = 22]		
<u> </u>			[純資産の部]		F 107 000
④その他定額運用基金	0		1 公共資産等整備国県補助金等	_	5, 107, 260
⑤退職手当組合積立金	<u>-</u> _	7			00 005 000
基金等計	493, 22 415, 05	_	2 公共資産等整備一般財源等	_	26, 925, 088
(4) 長期延滞債権		_	0 7 0 11 10 84 15 17		
(5) 回収不能見込額	△ 43,08	<del>_</del>	3 その他一般財源等	_	△ 4, 984, 503
投資等合計		1, 240, 048	a de de Ser les de Centre		E00 70
Marie 1991 1999 1991			4 資産評価差額	_	580, 738
流動資産			4 7		07 000 500
(1) 現金預金	004 007		純 資 産 合 計	_	27, 628, 583
①財政調整基金	391, 307				
②減債基金	0				
③歳計現金	398, 146				
現金預金計	789, 45	3			
(2) 未収金	00 500				
①地方税	93, 528				
②その他	8, 233				
③回収不能見込額	△ 13, 218				
未収金計	88, 54				
流動資産合計		877, 996			
資 産 合 計		37, 669, 568	負 債 · 純 資 産 合 計	_	37, 669, 568
※1 他団体及び民間への支出金	とにより形成された資産	①生活インフラ・	<b>!</b> 国土保全 897	7 千円	
		②教育		- 3 千円	
		3 福祉	12, 036		

※1 他団体及び民間への支出金により形成された資産	①生活インフラ・国土保全	897_千円
	②教育	168_千円
	③福祉	12,036 千円
	④環境衛生	1,931 千円
	⑤産業振興	0 千円
	⑥消防	78,991 千円
	⑦総務	114,021 千円
	at	208,044 千円
上の支出金に充当された財源	①国県補助金等	48, 484 千円
	②地方債	52,461 千円
	③一般財源等	107,099 千円
	at	208,044 千円
※2 債務負担行為に関する情報	①物件の購入等	96,874 千円
	②債務保証又は損失補償	0 千円
	(うち共同発行地方債に係るもの	0 千円)
	③その他	217, 338 千円

%3 地方債残高(翌年度償還予定額を含む)のうち2、325、278千円については、償還時に地方交付税の算定 $\overline{\text{O}}$ 基礎に含まれることが見込まれているものです。

			[内	訳]
	項目	金額	負債計上	注記
	ж <u>н</u>	<u> </u>	【(翌年度償還予定) 地方債・(長期)未払 金・引当金】	【契約債務 · 偶発債務】
普通会	計の将来負担額	34,303,486 千円		
[内訳]	普通会計地方債残高	6,541,456 千円	6,541,456 千円	
	債務負担行為支出予定額	0千円	0 千円	0 千円
	公営事業地方債負担見込額	24,781,510 千円		24,781,510 千円
	一部事務組合等地方債負担見込額	0 千円		0 千円
	退職手当負担見込額	2,980,520 千円	2,980,520 千円	
	第三セクター等債務負担見込額	0 千円	0 千円	0 千円
	連結実質赤字額	0 千円		
	一部事務組合等実質赤字負担額	0 千円		
基金等	将来負担軽減資産	6,490,200 千円		
[内訳]	地方債償還額等充当基金残高	902,910 千円		
	地方債償還額等充当歳入見込額	98,963 千円		
	地方債償還額等充当交付税見込額	5, 488, 327 千円		
(差引)	普通会計が将来負担すべき実質的な負債	27,813,286 千円		
		<del> </del>		

※5 有形固定資産のうち、土地は8,932,198千円です。また、有形固定資産の減価償却累計額は36,969,039千円です。

行政コスト計算書 ( <sup>自 平成27年4月 1日</sup>) ( <sup>至 平成28年3月31日</sup>)

△ 590,969 一般財源 振替額 0 0.0% (単位:千円) そのも 41,768 0.5% 回収不能 見込計上額 2,652 2,652 74,099 0.8% 76,751 76,751 76,751 3.5% 嘭 平 払 赵 2,319 2,319 0 0 1,468 3,967 1.4% 0 130,520 118,233 4,533 124,234 3,967 130,520 0.0% 艦 598,958 118,715 36,389 625,243 17,469 114,775 757,487 117,970 118,036 1,629,585 17.7% 16,822 99 1,598,396 榝 컗 13.1% 204,319 119,916 120,428 92,915 150,829 44,843 881,980 909'9 135 1,206,468 377 1,206,727 259 259 0.0% 臣 浜 528,635 537,546 80,949 131,187 131,407 5.8% 4,850 1.7% 6,994 283,251 220 4,061 3,911 無 世 131,879 170,475 474,475 39,205 16.7% 27,173 29,543 9,053 724,250 123,724 332 ,322,449 122 38,751 1,532,129 %8. 1,504,956 ₩ 调塘 324,062 25,063 67,296 4,246 19,690 91,232 536,644 36,498 18.5% 25,950 51,123 3.0% 70,981 1,187,422 1,698,760 1,647,637 粒 皿 411,415 831,970 5,529 78,749 321,424 18,971 84,278 1,320,861 14.4% 121,083 1,224 122,307 1,198,554 楘 981,319 131,045 62,199 466,127 1,126 420,939 422,065 11.1% 37,918 102,000 6,837 326,857 77,071 1,019,237 37,061 生活インフラ・ 国土保全 857 43.1% 25.9% 32.7% 23.5% 16.5% 5.9% 5.7% 11.3% 22.9% 0.5% 0.0% 1.3% 5.2% 1.6% 3.0% %0:0 0.8% 542,295 2,105,160 118,519 292,225 482,194 149,618 278,689 ,521,076 3,960,802 41,768 9.49% 8,321,383 2,161,037 533 76,751 9,193,884 872,501 ,035,816 魯 総 a I (2)退職手当引当金繰入等 菜 (3)他会計等への支出額 (2)回収不能見込計上額 (4)他団体への 公共資産整備補助金等 귂 (3)賞与引当金繰入額 (差引) 純経常行政コスト 数 (3)その他行政コスト К 盂 卍 盂 (1)社会保障給付 •負担金• П 柑 d/a (2)維持補修費 (3)減価償却費 華 【経常行政コスト】 (2)補助金等 (1)支払利息 ÷ 镹 (1)物件費 (1)人件費 작 + 【経常収益】 分担金・ 作 Щ ه ⊮ 使 驰 Ŋ

532,998 590,969

純<u>資産変動計算書</u> (自 平成27年4月 1日) 至 平成28年3月31日]

	純資産合計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資產評価差額
期首純資産残高	28,482,742	5,206,502	27,588,616	△ 4,909,678	597,302
純経常行政コスト	△ 8,321,383		l	△ 8,321,383	
一般財源地方稅	5,938,932			5,938,932	
地方交付税	65,498			65,498	
その他行政コスト充当財源	667,588		,	667,588	
補助金等受入	813,119	138,288	ı	674,831	
臨時損益					
災害復旧事業費	0		'	0	
公共資産除売却損益	△ 14,707			△ 14,707	
投資損失	△ 3,362		'	△ 3,362	
損失補償等引当金繰入等	0			0	
科目振替					
公共資産整備への財源投入			53,875	△ 53,875	
公共資産処分による財源増		0	△ 53,400	53,400	0
貸付金・出資金等への財源投入			131,645	△ 131,645	
貸付金・出資金等の回収等による財源増		0	△ 208,216	208,216	0
減価償却による財源増		△ 237,530	△ 1,266,826	1,521,076	△ 16,720
地方債償還等に伴う財源振替			679,394	△ 679,394	
資産評価替えによる変動額	156			·	156
無償受贈資産受入	0			•	0
そのも	0				
期末純資産残高	27,628,583	5,107,260	26,925,088	△ 4,984,503	580,738

### 資金収支計算書

自 平成27年4月 1日 至 平成28年3月31日

(単位・千円)

						( <u>E</u>	<u> 1位:十円)</u>	
1	経	常	的	収	支	の	部	
人件費	ŧ						2,818,884	
物件費	費						2,161,037	
社会例	保障給付						542,295	
補助金	金等						524,878	
支払利	间息						76,751	
他会言	他会計等への事務費等充当財源繰出支出							
その他	也支出						278,689	
支	Ł	<del>L</del>	合		計		7,018,951	
地方和	兑						5,967,700	
地方多	を付税						65,498	
国県初	甫助金等						674,611	
使用料	科·手数料						263,491	
分担金	金•負担金	▪寄附釒	ž				574,630	
諸収力	ζ						79,507	
地方個	責発行額						108,000	
基金耳	10 財額						258,818	
その他	也収入						586,755	
収	j	λ	合		計		8,579,010	
経	常	的	収	支	額	•	1,560,059	

2 2	、 共	資	産	整	備	収	支	の	部
公共資産	整備支出	±							811,532
公共資産整備補助金等支出									533
他会計等への建設費充当財源繰出支出									51,717
支	出		É	介		計			863,782
国県補助	]金等								138,508
地方債务	行額								619,500
基金取崩	額								0
その他収	!入								13,428
収	入		Ę	<u>-</u>		計			771,436
公 共	資産	整整	備	収	支	額		4	△ 92,346

3	投	:	資	•	財	務	的	収	支	の	部
投	資及び	出資	金								0
貸	付金										35,484
基	金積立	額									106,357
定	額運用	基金	えへの	繰出	支出						0
他	会計等	~0	)公債	費充	当財	源繰出	出支出				369,320
地	方債償	還額	Į.								914,812
Æ	期未払	全金.	₹払支	出							0
_	の他支										0
支			出			合		計		1	.425.973
玉	県補助	金等	Ě								0
貸	付金回	収割	Į.								59,326
基	金取崩	額									0
#	方債発	行客	ā								0
_	共資産		-	λ							38,693
	の他収		J-4- 17								20,670
収			λ			合		計			118,689
投			財	務	的		支	額		Δ 1	.307,284

翌年度繰上充用金増減額	0
当年度歳計現金増減額	160,429
期首歳計現金残高	237,717
期末歳計現金残高	398.146

- ※1 一時借入金に関する情報
- ① 資金収支計算書には一時借入金の増減は含まれていません。
- ② 平成27年度における一時借入金の借入限度額は1,000,000千円です。
- ③ 支払利息のうち、一時借入金利子は0千円です。 ※2 基礎的財政収支(プライマリーバランス)に関する情報

± 22 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	או הוש ל נאורי	
収入総額		9,469,135 千円
地方債発行額	Δ	727,500
財政調整基金等取崩額	Δ	249,557
支出総額	Δ	9,308,706
地方債元利償還額		991,563
財政調整基金等積立額	<u></u>	100,458
基礎的財政収支		275,393 千円

# 箱根町の普通会計財務4表の分析結果

1 資産形成度~将来世代に残る資産はどれくらいあるのか~

### ① 資産

〇紀	<b>圣年比較</b>				(単位	:百万円)
		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	資産額	42,247	40,934	39,775	38,520	37,670



### 普通会計資産額比較

-	200	7.1	****	District Column 2	president		
•		4 - 0	pathog	- Brenn	2 2 2	. %	١.

		25年	度	26年	E度	27호	F度	比較(26文	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	伸び率
公	共資産	37,506	94.3%	36,314	94.3%	35,552	94.4%	△ 762	-2.1%
	有形固定資産	36,442	91.6%	35,263	91.5%	34,517	91.6%	△ 746	-2.1%
	売却可能資産	1,064	2.7%	1,051	2.7%	1,035	2.7%	△ 16	-1.5%
投	<b>資等</b>	1,444	3.6%	1,317	3.4%	1,240	3.3%	△ 77	-5.8%
	投資及び出資金	327	0.8%	285	0.7%	282	0.7%	△ 3	-1.1%
	貸付金	146	0.4%	116	0.3%	93	0.2%	△ 23	-19.8%
	基金等	499	1.3%	497	1.3%	493	1.3%	<b>△</b> 4	-0.8%
	長期延滞債権等	527	1.3%	464	1.2%	415	1.1%	△ 49	-10.6%
	回収不能見込額	△ 55	-0.2%	△ 45	-0.1%	△ 43	-0.1%	2	-4.4%
流	動資産	825	2.1%	889	2.3%	878	2.3%	Δ 11	-1.2%
	現金預金	727	1.8%	778	2.0%	789	2.1%	11	1.4%
	未収金	98	0.2%	111	0.3%	89	0.2%	△ 22	-19.8%
	資産合計	39,775	100.0%	38,520	100.0%	37,670	100.0%	△ 850	-2.2%

### ② 住民一人当たり資産額

### 住民一人当たり資産額 = 資産合計/住民基本台帳人口

資産合計:貸借対照表の資産合計

住民基本台帳人口:年度末人口(3月31日現在)

27年度 37,669,568千円 / 11,969人 = 3,147千円 (対前年度 36千円の増)

0	経年比較	(単	位:千円)		
		24年度	25年度	26年度	27年度
	住民一人当たり資産額	3,230	3,182	3,111	3,147

### ③ 有形固定資産の行政目的別割合

行政目的別有形固定資産の内訳(箱根町)

有形固定資産の行政目的別割合を見ることにより、行政分野ごとの社会資本形成の比重を把握できます。

(单位:千円、%)

### 〇経年比較

 平成25年度
 平成26年度
 平成27年度

 金額
 構成比
 金額
 構成比

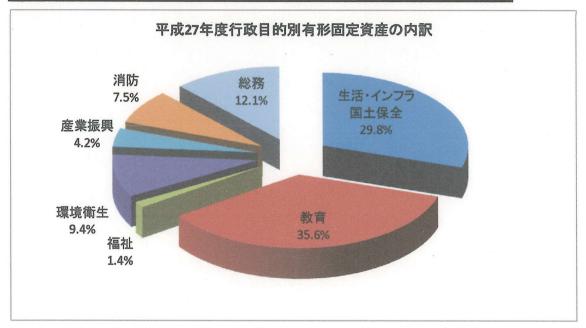
 生活・インフラ・国土保全
 10,734
 31.1%
 10,492
 30.4%
 10,298
 29.8%

 教育
 13,025
 37.7%
 12,615
 36.5%
 12,288
 35.6%

 福祉
 455
 1.4%
 474
 1.4%
 469
 1.4%

 開始体計

				00.170		E 0 . 0 /0
教育	13,025	37.7%	12,615	36.5%	12,288	35.6%
福祉	455	1.4%	474	1.4%	469	1.4%
環境衛生	4,205	12.2%	3,730	10.8%	3,255	9.4%
産業振興	1,492	4.3%	1,469	4.3%	1,439	4.2%
消防	2,147	6.2%	2,194	6.4%	2,605	7.5%
総務	4,384	12.7%	4,289	12.4%	4,163	12.1%
有形固定資産合計	36,442	100.0%	35,263	100.0%	34,517	100.0%



### ④ 歳入額対資産比率

当年度の歳入総額に対する資産の比率を算定することにより、これまでに形成されたストックとしての 資産が、歳入の何年分に相当するかを表し、地方公共団体の資産形成の度合いを測ることができま す。

### 歳入額対資産比率 = 資産合計/歳入総額

資産合計:資産合計(貸借対照表)

歳入総額:各部の収入合計の総額と期首歳計現金残高の合計(資金収支計算書)

経常的収支の部収入合計

8,579,010 千円

公共資産整備収支の部収入合計

771.436 千円

投資・財務的収支の部収入合計

1,425,973 千円

期首歲計現金残高

237.717 千円

27年度 37,670百万円/11,014百万円 = 3.42 年

O	経年比較			(	単位:年)
		24年度	25年度	26年度	27年度
	歳入額対資産比率	4.53	4.14	4.36	3.42

### ⑤ 資産老朽化比率

有形固定資産の内、償却資産の取得価格に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを全体として把握することができます。

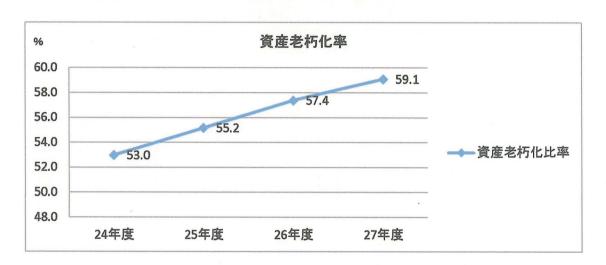
### 資産老朽化比率 = 減価償却累計額 / (有形固定資産-土地+減価償却累計額)

減価償却累計額、土地:貸借対照表注記5

有形固定資産:有形固定資産合計(貸借対照表)

27年度 36,969百万円/(34,517百万円-8,932百万円+36,969百万円)=59.1%

0	経年比較	(	単位:%)		
		24年度	25年度	26年度	27年度
	資産老朽化比率	53.0	55.2	57.4	59.1



### 2 世代間公平性~将来世代と現世代との負担の分担は適切か

### ① 純資産比率

地方公共団体は、地方債の発行を通じて、将来世代と現世代の負担の配分を行います。純資産の変動は、将来世代と現世代との間で負担の割合が変動されたことを意味します。

### 純資産比率 = 純資産総額/資産総額

純資産総額:純資産合計(貸借対照表) 資産総額:資産合計(貸借対照表)

27年度 27.629百万円/37.670百万円 = 73.3%

〇経年比較 (単位:%、百万円) 24年度 25年度 26年度 27年度 純資産比率 73.6% 72.7% 73.9% 73.3% 総資産 40,934 37,670 39,775 38,520 純資産 30.133 28,931 28,483 27.629



### ② 社会資本等形成の世代間負担比率

社会資本等について将来の償還等が必要な負債による形成割合をみることにより、社会資本等形成に係る将来世代の負担の比重を把握することができます。

### 社会資本等形成の世代間負担比率(将来世代負担比率)

=(地方債残高+未払金)/(公共資産+投資等)

地方債:「地方債」+「翌年度償還予定地方債」(貸借対照表)

ただし、臨時財政対策債、減収補てん債、退職手当債、減税補てん債、財政対策債等は除く

5,645,002千円+896,454千円-2,484,317千円=4,057,139千円 未払金:「長期未払金①物件の購入等」+「未払金」(貸借対照表)

0+0=0

公共資産:「公共資産合計」(貸借対照表)

35.551.524千円

投資等:「投資等合計」(貸借対照表)

(公共資産等の整備に充当されないことが明らかな特定目的基金及び退職手当組合積立金を除く) 1,240,048千円-121,347千円=1,118,701千円

27年度 4,057,139千円/(35,551,524千円+1,118,701千円) = 11.1%

### 〇経年比較(単位:%、百万円)

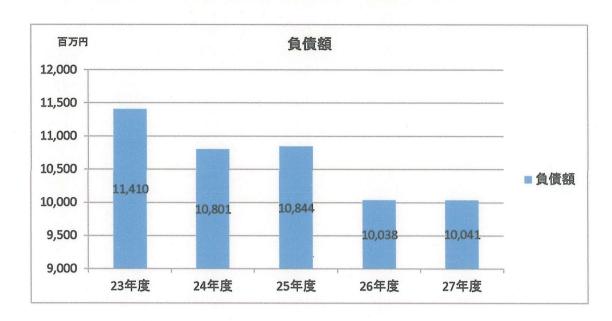
	24年度	25年度	26年度	27年度
将来世代間比率	12.8%	11.8%	10.9%	11.1%
地方債残高	5,133	4,572	4,107	4,057
公共資産合計	40,041	37,506	36,314	35,552



### 3 持続可能性(健全性)~財政に持続可能性があるか(どれくらい借金があるのか)~

### ① 負債

〇経年比較				(単位	:百万円)
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
負債額	11,410	10,801	10,844	10,038	10,041



負債額比較

							(単位:白/	万円、%)
	25年	F.度	26年	E度	27年	F度	比較(26対	27年度)
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	伸び率
固定負債	9,793	90.3%	8,973	89.4%	8,995	89.6%	22	0.2%
地方債	6,388	58.9%	5,815	57.9%	5,645	56.2%	Δ 170	-2.9%
長期未払金	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	_
退職手当引当金	3,405	31.4%	3,158	31.5%	3,350	33.4%	192	6.1%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	_
流動負債	1,051	9.7%	1,065	10.6%	1,046	10.4%	△ 19	-1.8%
翌年度償還予定地方債	904	8.3%	914	9.1%	896	8.9%	Δ 18	-2.0%
短期借入金	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	_
未払金	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	_
翌年度支払予定退職手当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-
賞与引当金	147	1.4%	151	1.5%	150	1.5%	Δ1	-0.7%
負債合計	10,844	100.0%	10,038	100.0%	10.041	100.0%	3	0.0%

### ② 住民一人当たり負債額

# 住民一人当たり負債額 = 負債総額/住民基本台帳人口

負債総額:負債合計(貸借対照表)

27年度 10,041百万円/11,969人 = 839千円

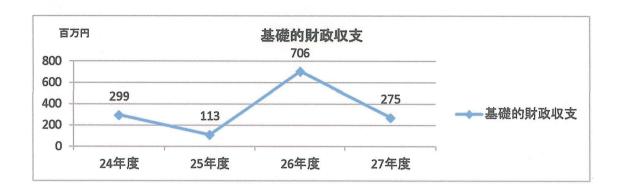
〇経年比較		(単	位:千円)	
	24年度	25年度	26年度	27年度
住民一人当たり負債額	852	867	811	839

### ③ 基礎的財政収支(プライマリーバランス)

公債の元利償還額を除いた歳出と公債発行収入を除いた歳入のバランスをみるもので、プライマリー バランスが均衡している場合には、経済成長率が長期金利を下回らない限り経済規模に対する地方債 の比率は増加せず、継続可能な財政運営であるといえます。

基礎的財政収支 = 収入総額一地方債発行額一財政調整基金等取崩額一支出総額+ 地方債償還額+財政調整基金等積立額

〇経年比較	(単位	:百万円)		
	24年度	25年度	26年度	27年度
基礎的財政収支	299	113	706	275



### 4 効率性~行政サービスは効率的に提供されているか~

### ① 住民一人当たり行政コスト

地方公共団体の経常的な行政活動の効率性を測定することができます。また、この指標を類似団体と比較することで、当該団体の効率性の度合いを評価することができます。

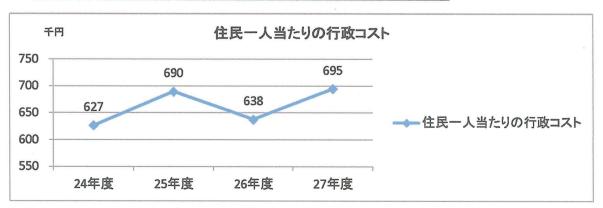
### 住民一人当たりの行政コスト = 純経常費用(純経常行政コスト)/住民基本台帳人口

純経常費用:純経常行政コスト(純資産変動計算書)

27年度 8,321,383千円/11,969人 = 695千円

〇経年比較			(単位	:百万円)
	24年度	25年度	26年度	27年度
純経常費用	7.945	8.622	7.898	8.321

	24年度	25年度	26年度	27年度
住民一人当たりの行政コスト	627	690	638	695



### ② 住民一人当たり人件費・物件費等

住民一人当たり人件費・物件費等を見ることにより、地方公共団体の経常的な行政活動に係る効率性を測定することができます。

### 住民一人当たり人件費・物件費等 = 人件費・物件費等/住民基本台帳人口

人件費:「人件費」、「退職手当引当金繰入等」、「賞与引当金繰入額」、「物件費」、「維持補修費」、「減価償却費」の合計(行政コスト計算書)

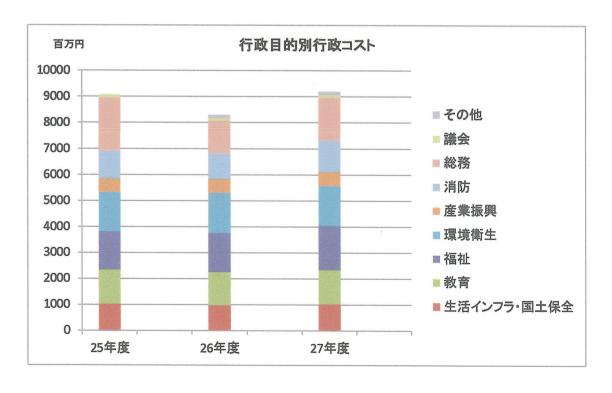
27年度 6,970,205千円/11,969人 = 582千円

0	経年比較			(単	位:千円)
		24年度	25年度	26年度	27年度
	住民一人当たりの人件費・物件費等(発生主義)	504	530	508	582

### ③ 行政目的別行政コスト

行政目的別の行政コストを比較することにより、行政コスト全体における行政目的ごとの増減分析が可能です。

〇経年比較 (単位:百万円、%) 25年度 26年度 27年度 比較(26対27年度) 金額 金額 構成比 構成比 金額 構成比 増減額 伸び率 生活インフラ・国土保全 1.018 11.3% 964 11.6% 1,019 11.1% 55 5.7% 教育 1.312 14.6% 1.284 15.5% 1.321 14.4% 37 2.9% 福祉 1.482 16.5% 1.514 18.2% 1,699 18.5% 185 12.2% 環境衛生 1,514 16.8% 1.537 18.5% 1,532 16.7%  $\Delta$  5 -0.3%産業振興 512 5.7% 525 6.3% 537 5.8% 12 2.3% 消防 1,071 11.9% 998 12.0% 1,207 13.1% 209 20.9% 総務 2.033 22.6% 1,231 14.8% 1,629 17.7% 398 32.3% 1.4% 議会 136 1.5% 129 1.6% 131 2 1.6% その他 -82 -0.9%116 1.4% 119 1.3% 3 2.6% 計 8.996 100.0% 8,298 100.0% 9.194 100.0% 896 10.8%



### ④ 行政コスト対公共資産比率

行政コストの公共資産に対する比率を見ることで、どれだけの資産でどれだけの行政サービスを提供しているか(資産が効率的に活用されているか)を分析することができます。さらに、この指標を行政目的別に算定することにより、各行政分野におけるハード・ソフト両面にわたるバランスのとれた財源配分を検討することができます。

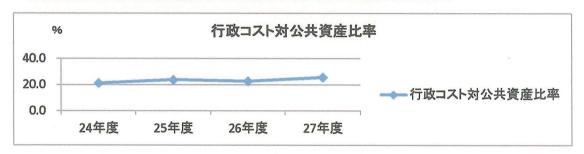
### 行政コスト対公共資産比率 = 経常費用(経常行政コスト)/公共資産

経常費用:経常行政コスト(行政コスト計算書)

公共資産:公共資産合計(貸借対照表)

27年度 9,193,884千円/35,551,524千円 = 25.9%

〇経年比較(単位:%)24年度25年度26年度27年度行政コスト対公共資産比率21.524.022.925.9



(単位:%)

### 〇経年比較

D-MENNING TO THE PARTY OF THE P		行政目	的別行政コスト対公共資産比率	
	1	13000	*************************************	

	24年度	25年度	26年度	27年度
生活インフラ・国土保全	8.5	9.5	9.2	9.9
教育	9.6	10.1	10.2	10.7
福祉	335.1	325.6	319.4	362.3
環境衛生	32.4	36.0	41.2	47.1
産業振興	34.2	34.3	35.7	37.3
消防	44.1	49.9	45.5	46.3
総務+その他	37.2	47.6	34.4	45.1
合 計	22.1	24.7	23.5	26.6
ツロルロルのルカルー	+ + T/ CO +	3/8 Tr 0 2.		

※目的別の比率については、有形固定資産のみ

### 5 弾力性~資産形成を行う余裕はどのくらいあるか~

### ① 行政コスト対税収等比率

税収などの一般財源等に対する純経常行政コストの比率を見ることによって、当該年度の税収等のうち、どれだけが資産形成の伴わない純経常行政コストに消費されたのかが分かります。この比率が100%に近づくほど資産形成の余裕度が低いと言え、さらに100%を上回ると、過去から蓄積した資産が取り崩されたことを表します。

### 行政コスト対税収等比率 = 純経常行政コスト/税収等

純経常行政コスト: 純経常行政コスト(純資産変動計算書)

税収等:一般財源、補助金等受入(その他一般財源等の列)、

減価償却による財源増(公共資産等整備国県補助金等の列の値の絶対値)の合計額 (純資産変動計算書)に退職手当債、臨時財政対策債及び減収補てん債(特例分)の 当年度発行額を加えた額

27年度 8,321,383千円/(6,672,018千円+674,831千円+237,530千円+108,000千円) = 8,321,383千円/7,692,379千円 = 108.2%

経年比較			(単位:%.	百万円)
	24年度	25年度	26年度	27年度
行政コスト対税収等比率	105.7%	111.9%	109.6%	109.6%
純経常行政コスト	7,945	8,622	7,898	8,321
税収等	7,516	7,703	7,204	7,692



### 6 自律性~歳入はどれくらい税金等で賄われているか

(受益者負担の水準は、どうなっているか)~

### ① 受益者負担の割合

行政コスト計算書の「経常収益」は、使用料・手数料など行政サービスに係る受益者負担の金額ですので、これを「経常費用(経常行政コスト)」と比較することにより、行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を算出することができます。また、これを事業別、施設別に算定することで、受益者負担の割合を詳細に分析することができます。

### 受益者負担の割合 = 経常収益/経常費用(経常行政コスト)

経常収益:経常収益合計(行政コスト計算書)

27年度 339,503千円/9,193,884千円 = 3.69%

※27年度は、ふるさと納税を含む、寄附金532,998千円を経常収益より控除している。 使用料・手数料・分担金・負担金のみを受益者負担の計算に含んだもの。

0	経年比較			(単位:%.	百万円)
		24年度	25年度	26年度	27年度
	受益者負担の割合	4.59%	4.15%	4.83%	3.69%
	経常収益	382	373	400	340
	経常行政コスト	8,327	8,995	8,298	9,194



### 連結貸借対照表

(平成28年3月31日現在)

	/# ±			15	+		(単位:十片
「次立の如う	借 方			貸の毎日	方		
[資産の部]				[負債の部]			
1 公共資産				1 固定負債			
(1) 有形固定資産				(1) 地方公共団体			
①生活インフラ・国土保全	25,414,864			①普通会計地方債	5,645,002		
②教育	12,287,738			②公営事業地方債	6,958,141		
③福祉	468,859			地方公共団体計	_	12,603,143	
4環境衛生	7,762,903			(2) 関係団体			
⑤産業振興	2,317,293			①一部事務組合・広域連合地方債	0		
<b>⑥消防</b>	2,604,535			②地方三公社長期借入金	0		
⑦総務	4,163,197			③第三セクター等長期借入金	0		
⑧収益事業	0			関係団体計		0	
9その他	0			(3) 長期未払金		0	
有形固定資産計		55,019,389		(4) 引当金	_	3,370,740	
(2) 無形固定資産	_	0		(うち退職手当等引当金)	_	3,354,541	
(3) 売却可能資産	_	1,034,563		(うちその他の引当金)	_	16,199	
公共資産合計	_		56,053,952	(5) その他	_	938,578	
				固定負債合計	_		16,912,461
: 投資等				2 流動負債			
(1) 投資及び出資金		14,723		(1) 翌年度償還予定額			
(2) 貸付金	_	92,871		①地方公共団体	1,680,798		
(3) 基金等	_	1.081.938		②関係団体	0		
(4) 長期延滞債権	_	510,978		翌年度償還予定額計		1,680,798	
(5) その他	_	4,700		(2) 短期借入金(翌年度繰上充用金を含む)	_	0	
(6) 回収不能見込額	_	△ 74,561		(3) 未払金	_	125,428	
	_	△ /4,301	1 620 640		-	0	
投資等合計		_	1,630,649	(4) 翌年度支払予定退職手当	_		
				(5) 賞与引当金	_	162,678	
				(6) その他	_	34,649	
3 流動資産				流動負債合計 			2,003,553
(1) 資金	_	1,247,626					
(2) 未収金	_	189,037		負 債 合 計		_	18,916,014
(3) 販売用不動産	_	0					
(4) その他	_	3,698		[純資産の部]			
(5) 回収不能見込額	_	△ 44,627		1 公共資産等整備国県補助金等	_	12,196,295	
流動資産合計			1,395,734	2 公共資産等整備一般財源等	_	35,121,072	
				3 他団体及び民間出資分	_	0	
				4 その他一般財源等	_	△ 7,468,484	
1 繰延勘定			0	5 資産評価差額	_	582,931	
		_		純 資 産 合 計	_		40,431,814
資 産 合 計		_	59,080,335	負債及び純資産合計			59,347,828

連結行**政コスト計算書** 自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日

【経常行政コスト】

	総額	(構成比率)	生活インノフ・国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	鞿	支払利息	回収个能 見込計上額	その街	
(1) 人件費	2,656,746	17.5%	156,042	328,178	401,685	159,201	208,138	686,308	598,960	118,234			0	
(2)退職手当等引当金繰入等	482,944	3.2%	22,208	64,218	70,981	29,543	21,917	150,829	118,715	4,533			0	
(3)賞与引当金繰入額	162,678	1.1%	12,259	18,971	29,495	11,209	8,044	44,843	36,389	1,468			0	
小計	3,302,368	21.8%	190,509	411,367	502,161	199,953	238,099	881,980	754,064	124,235			0	
(1)物件費	2,706,928	17.9%	342,360	345,250	147,433	810,081	327,557	104,798	625,480	3,969			0	
(2)維持補修費	359,054	2.4%	120,487	30,177	4,246	143,165	36,904	909'9	17,469	0				
(3)減価償却費	2,571,307	17.0%	1,088,705	411,415	19,690	660,138	183,669	92,915	114,775	0				
14 小	5,637,289	37.2%	1,551,552	786,842	171,369	1,613,384	548,130	204,319	757,724	3,969	0		0	
(1)社会保障給付	4,405,900	29.1%	520	5,529	4,399,509	122	220	0	0	0				
(2)補助金等	1,223,125	8.1%	13,604	76,191	709,412	39,884	143,828	119,916	117,971	2,319			0	
(3)他会計等への支出額	953	%0:0	-	0	952	0	0	0	0	0			0	
(4)他団体への 公共資産整備補助金等	141,531	%6:0	140,998	0	0	332	0	135	99	0			0	
14 小	5,771,509	38.1%	155,123	81,720	5,109,873	40,338	144,048	120,051	118,037	2,319			0	
(1)支払利息	266,351	1.8%									266,351			
(2)回収不能見込計上額	60,353	0.4%										60,353		
(3)その他行政コスト	105,619	%Ľ0	2,457	99	103,273	Δ 515	338	0	0	0			0	
小計	432,323	2.9%	2,457	99	103,273	△ 515	338	0	0	0	266,351	60,353	0	
行政コスト	a 15,143,489		1,899,641	1,279,995	5,886,676	1,853,160	930,615	1,206,350	1,629,825	130,523	266,351	60,353	0	
(構成比率	)		12.5%	8.5%	38.9%	12.2%	6.1%	8.0%	10.8%	%6.0	1.8%	0.4%	0.0%	
【経常収益】														一般財源 振替額
用料・手数	料 292,225		37,061	121,083	25,173	27,143	4,061	259	16,822	0	2,652		0	57,971
担金・負担金・寄附	全 2,342,888		857	△ 53,123	1,779,307	5,392	62,437	0	14,367	0	0		0	533,651
	料 942,012				942,012									
業収	4,211,079		569,657	8,832	0	298,792	229,783	0	0	0	104,015		0	
の他特定行政サービス収入	.A 91,075		2,525	4,534	13,000	42,524	28,492	0	0	0	0		0	0
会計補助金	等 45,507		△ 40,465	0	1,193	44,391	0	△ 377	0	0	40,765		0	0
常収益	b 4,924,786		569,635	81,326	2,760,685	418,242	324,773	△ 118	31,189	0	147,432		0	591,622
b/a	32.5%		30.0%	6.4%	46.9%	22.6%	34.9%	%0.0%	1.9%	%0.0%	55.4%		%0.0	
(差引) 純経常行政コスト ョー	-b 10,218,703		1,330,006	1,198,669	3,125,991	1,434,918	605,842	1,206,468	1,598,636	130,523	118,919	60,353	0	△ 591,622

# 連結純資産変動計算書 自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日

	純資產合計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	他団体及び 民間出資分	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	41,587,208	12,422,392	35,889,843	0	△ 7,324,522	599,495
純経常行政コスト	△ 10,218,703				△ 10,218,703	
一般財源						
地方稅	5,938,932				5,938,932	
地方交付税	65,498				65,498	
その他行政コスト充当財源	062,590				667,590	
補助金等受入	2,413,457	327,288			2,086,169	
臨時損益						
災害復旧事業費	0				0	
公共資産除売却損益	△ 15,399				△ 15,399	
投資損失	△ 3,362				△ 3,362	
収益事業純損失	0				0	
損失補償等引当金繰入	0				0	
科目振替						
公共資産整備への財源投入			87,864		△ 87,864	
公共資産処分による財源増		0	△ 54,092		54,092	0
貸付金・出資金等への財源投入		0	185,769		△ 185,769	
貸付金・出資金等の回収等による財源増		0	△ 254,826		254,826	0
減価償却による財源増		△ 553,385	△ 2,001,202		2,571,307	△ 16,720
地方債償還等に伴う財源振替			1,267,661		△ 1,267,661	
出資の受入・新規設立	0			0	0	
資産評価替えによる変動額	156					156
無償受贈資產受入	0					0
その他	△ 3,563	0	55	0	△ 3,618	0
期末純資産残高	40,431,814	12,196,295	35,121,072	0	△ 7,468,484	582,931

連結資金収支計算書 自 平成27年4月 1日 至 平成28年3月31日

						•	+ III 11/
1	経	常	的	収	支	の	部
人件費							3,113,809
物件費							2,692,092
社会保	障給付						4,405,900
補助金	等						1,222,227
支払利	息						266,351
その他は	支出						391,793
支		出	合		計		12,092,172
地方税							5,967,700
地方交	付税						65,498
国県補	助金等						2,085,949
使用料	• 手数料						263,491
分担金・	負担金•	寄附金					2,387,203
保険料							911,161
事業収	入						1,230,926
諸収入							138,084
地方债	発行額						183,300
長期借	入金借入	額					0
短期借	入金増加	口額					О
基金取	崩額						23,539
その他」	収入						636,199
収		入	合		計		13,893,050
経	常	的	収	支	額		1,800,878

2	公	共	資	産	整	備	収	支	の	部	
公共	公共資産整備支出								1,385,458		
公共	公共資産整備補助金等支出 141,53								141,531		
地方?	地方独立行政法人公共資産整備支出								0		
一部	一部事務組合 · 広域連合公共資産整備支出								0		
地方	地方三公社公共資産整備支出									0	
第三	第三セクター等公共資産整備支出								0		
その1	その他支出									220	
支		出			合		計		1	,527,209	
国県	国県補助金等							327,508			
地方	地方債発行額								993,400		
長期	長期借入金借入額								0		
基金	基金取崩額								0		
その1	その他収入								13,428		
収		入		合		計		1,334,33			
公	共	資 j	産 整	備	収	支	額		Δ	192,873	

3	投	資	•	財	務	的	収	支	<u>.</u> の	部
投資	及び出	資金								0
貸付	金									35,484
基金	積立額	į								42,159
定額	運用基	金への	繰出支	出						0
地方	債償還	額								1,756,365
長期	借入金	返済額								0
短期	借入金	減少額								0
長期	未払金	支払支	出							0
収益	事業純	支出								0
その	他支出									126,984
支		出			合		計			1,960,992
国県	補助金	等								0
貸付金回収額								59,458		
基金取崩額								3,362		
地方債発行額								200,000		
長期借入金借入額								0		
公共	資産等	売却収	入							38,693
収益	事業純	収入								0
その	他収入									20,538
収		入			合		計			322,051
投	資	· 則	才 務	的	47	٤ ٪	<b>茗</b> 額		Δ	1,638,941

翌年度繰上充用金増減額	0
当年度資金増減額	△ 30,936
期首資金残高	1,278,562
経費負担割合変更に伴う差額	0
期末資金残高	1,247,626